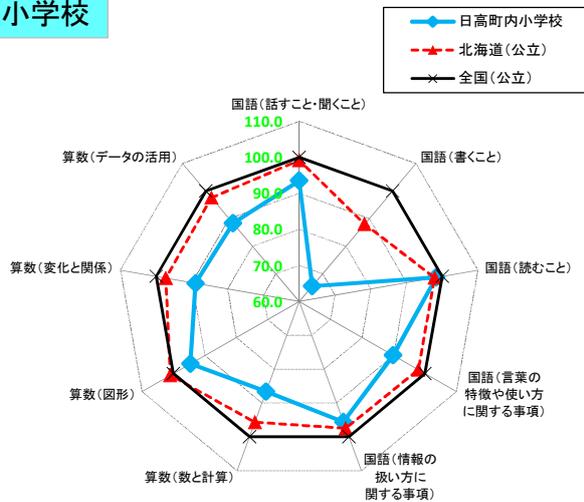


■日高町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:80人）（中学校数:4校、生徒数:90人）

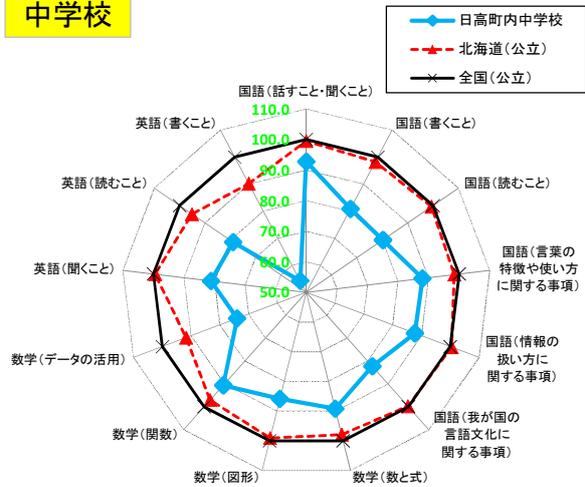
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

小学校

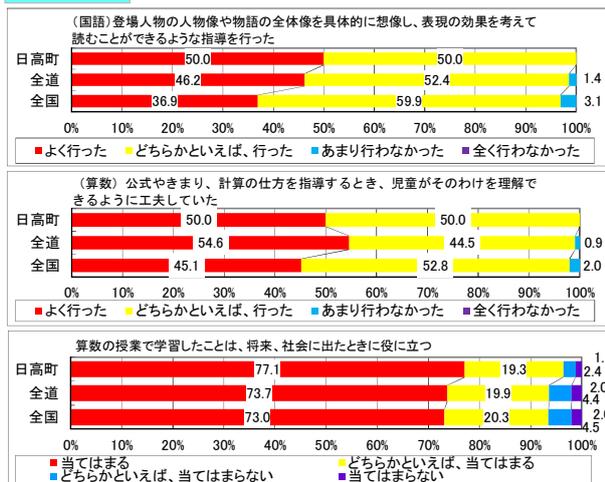


中学校

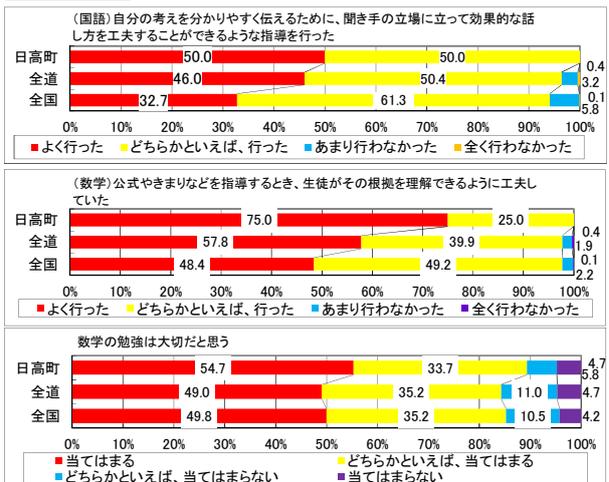


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導をよく行ったことにより、授業改善が図られ、「読むこと」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫をよく行ったことにより、授業改善が図られ、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「図形」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導をよく行ったことにより、授業改善が図られ、「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫をよく行ったことにより、授業改善が図られ、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「関数」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

【日高町の学力向上策】

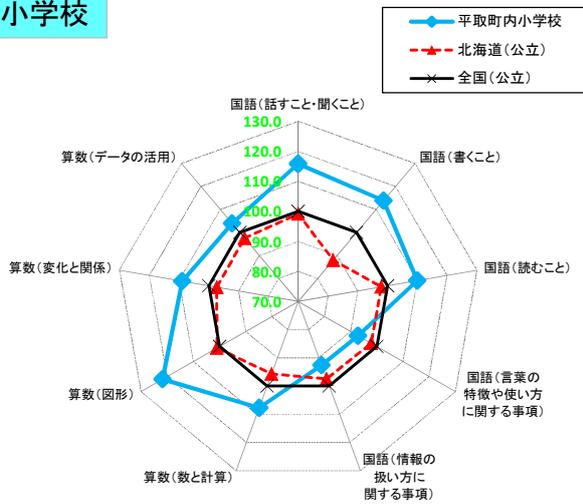
- ◎ 学力向上3年次計画に基づく、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組の推進
- ◎ 生活習慣づくりの支援及び家庭学習の充実に向けた校種間、家庭及び地域との連携強化

■平取町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:23人）（中学校数:2校、生徒数:29人）

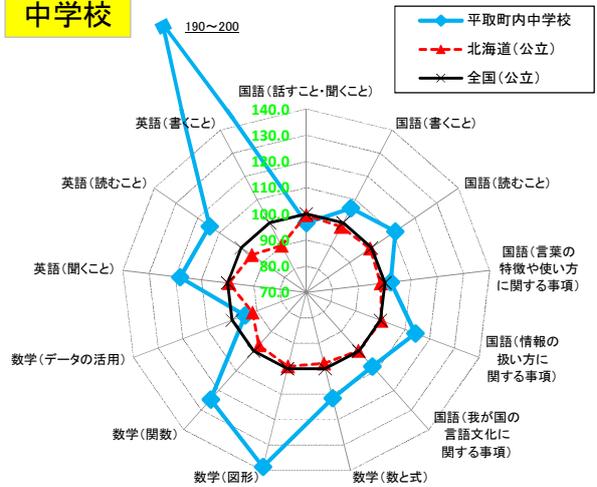
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

小学校

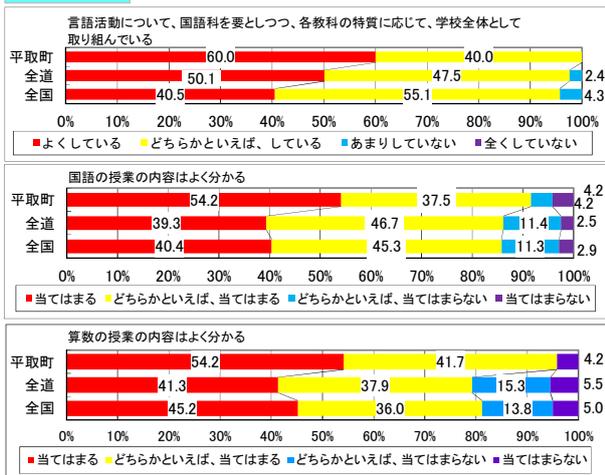


中学校

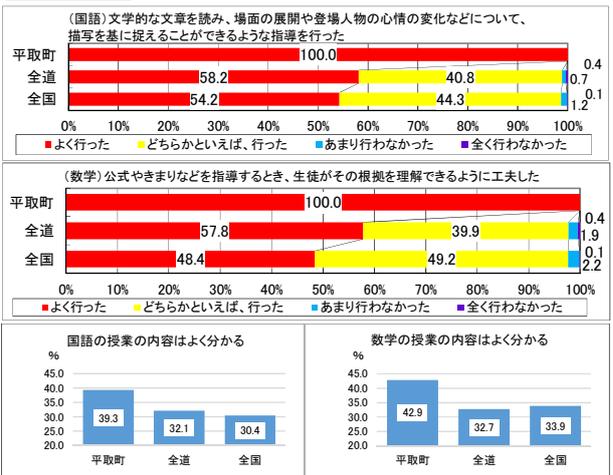


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要として、各教科等の特質に応じて、学校全体としてよく取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町指定教育推進事業・公開研究会による「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導をよく行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「書くこと」「読むこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるよう工夫をよく行ったことにより、授業改善が図られ、数学の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「数と式」「図形」「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

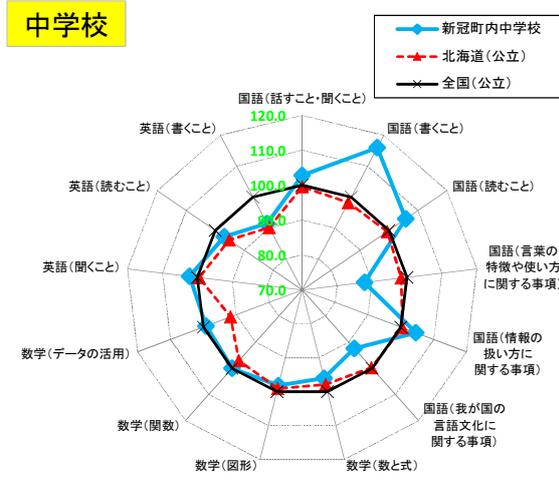
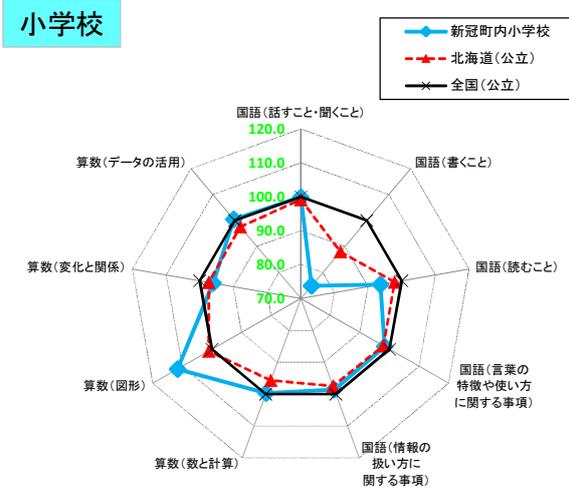
【平取町の学力向上策】

- ◎ 町指定教育推進事業・公開研究会による「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善の推進
- ◎ 長期休業中における学習サポート及び公営塾の通年開講による学習サポートの充実
- ◎ ICT支援員を活用した、「個別最適な学び」の充実を柱としたICT教育の推進

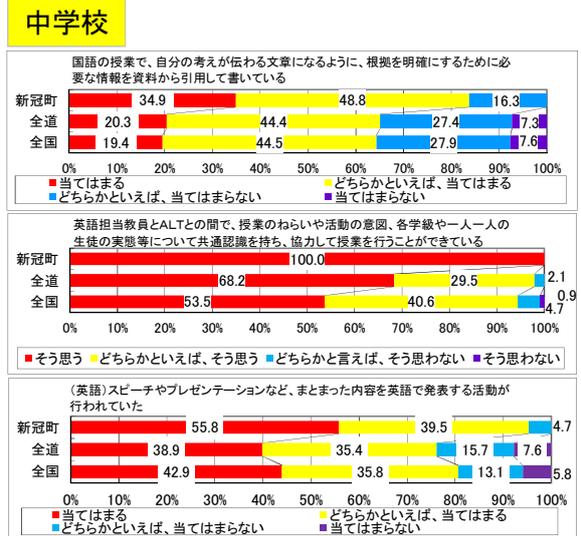
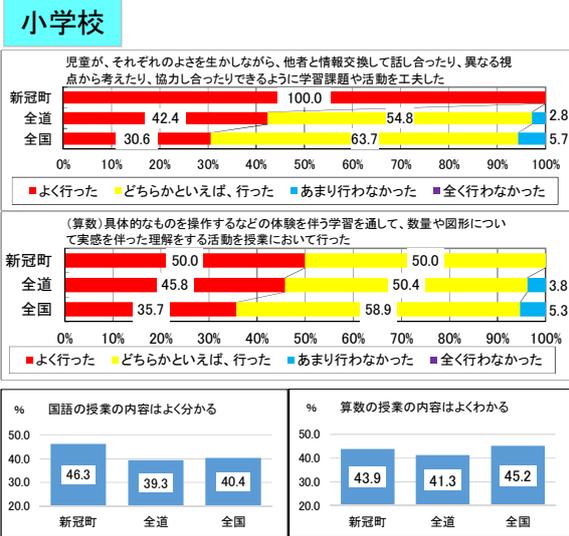
■新冠町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：40人）（中学校数：1校、生徒数：43人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動の工夫をよく行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的なものを操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動をよく行ったことにより、授業改善が図られ、算数の授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が全道を上回るとともに、「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

ICT機器を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組の推進を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域及び「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識をもち、協力して授業を行ったことにより、授業改善が図られ、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新冠町の学力向上策】

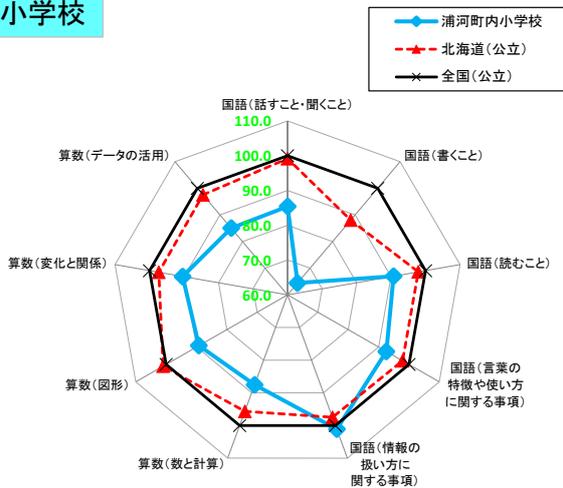
- ◎ 幼小中接続・小中一貫を意識したカリキュラム・マネジメント及び改善プランの実践と検証による授業改善の推進
- ◎ ICT機器を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組の推進
- ◎ 校種連携により義務教育9年間を通して計画的・継続的に行われる発達の段階に応じた家庭学習習慣確立に向けた取組の推進

■浦河町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:64人）（中学校数:3校、生徒数:87人）

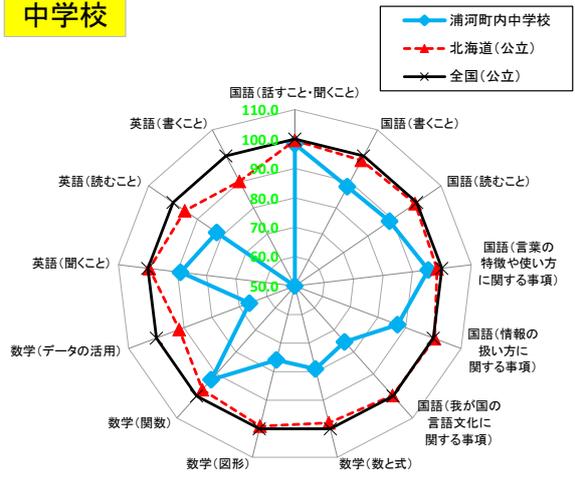
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

小学校

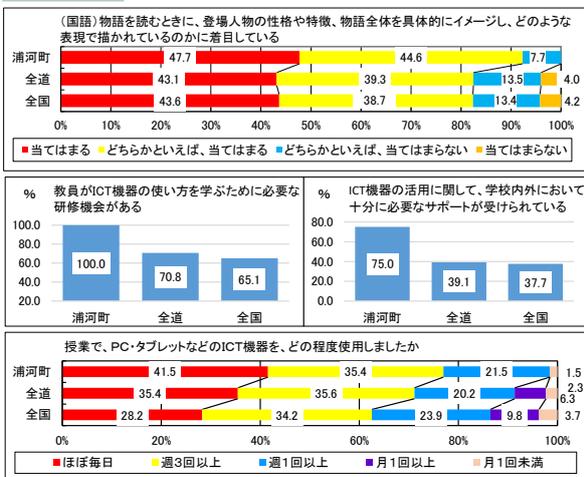


中学校

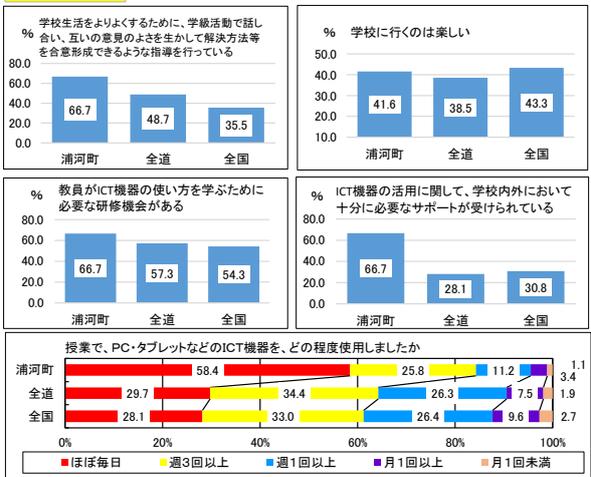


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進及び学力向上に係る研修の充実により、授業改善が図られ、国語の授業では、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内全ての小学校において、教員がICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設定するとともに、ICT機器の活用に関して学校内外において十分に必要なサポートが受けられたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

調査対象学年の生徒に対して、学校生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導をよく行ったことにより、学校に行くのは楽しいと回答した生徒の割合が全道を上回ったと考えられる。

町内の多くの中学校において、教員がICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設定するとともに、ICT機器の活用に関して学校内外において十分に必要なサポートが受けられたことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浦河町の学力向上策】

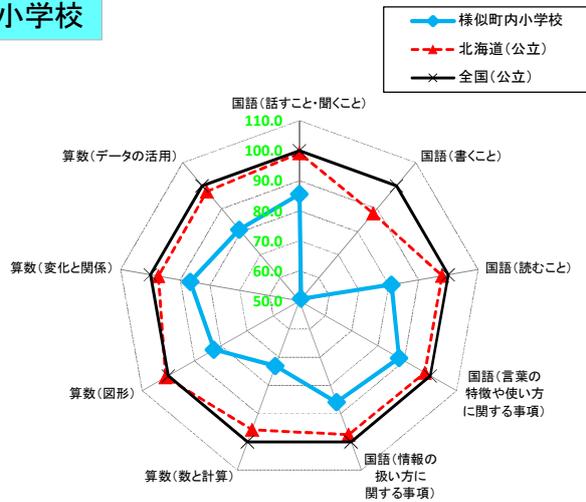
- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進及び学力向上に係る研修の充実
- ◎ 町内の小・中学校で統一した「浦河町授業スタンダード」に基づいた授業改善の推進
- ◎ 町発行の「家庭学習の取組」「アウトメディア宣言」での統一した家庭での望ましい生活習慣の定着に向けた取組の推進

■ 様似町内の状況及び学力向上策 (小学校数:1校、児童数:22人) (中学校数:1校、生徒数:22人)

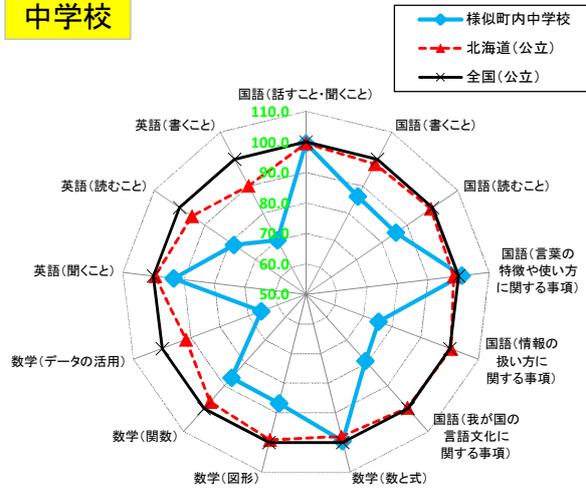
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

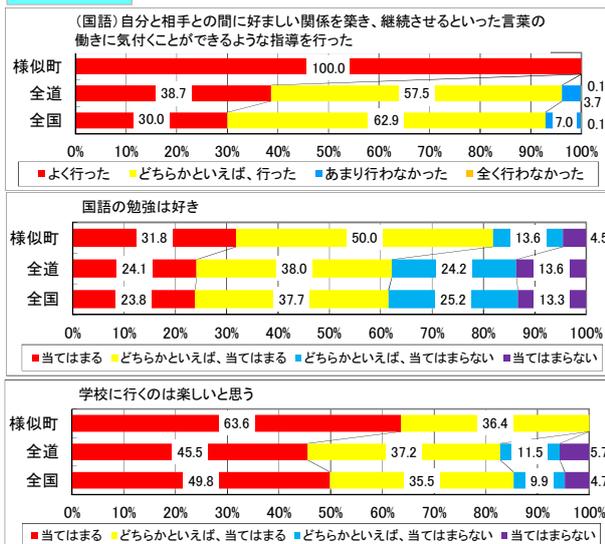


中学校

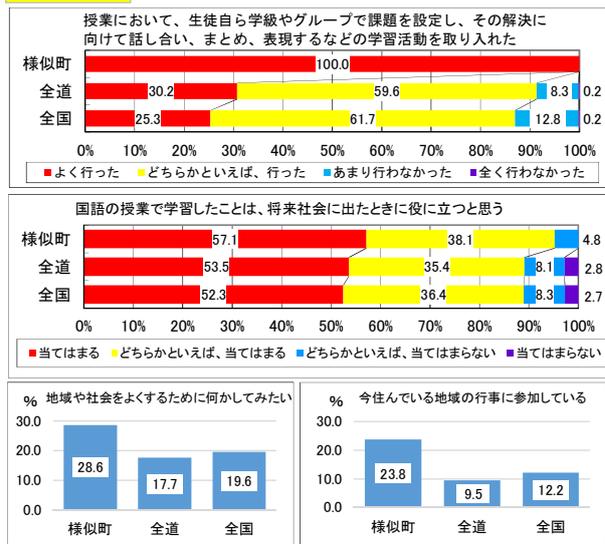


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導をよく行ったことにより、授業改善が図られ、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校種の垣根を越えた「小中一貫相互授業」による教員の指導体制の構築を行ったことにより、学校に行くのは楽しいと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、授業改善が図られ、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

「学校運営協議会」による、学校・家庭・地域が連携・協働する取組の推進により、地域や社会をよくするために何かしてみたい、今住んでいる地域の行事に参加していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【様似町の学力向上策】

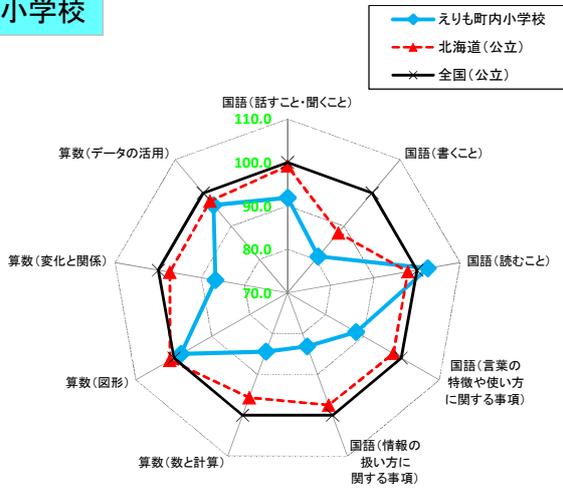
- ◎ 民間学習塾と連携した既習事項の定着及び自発的な学習習慣化に向けた取組の推進
- ◎ 学校種の垣根を越えた「小中一貫相互授業」による教員の指導体制の構築及び小・中学校教員の合同研修による課題共有と小・中統一した授業スタイルの推進
- ◎ 「学校運営協議会」による、学校・家庭・地域が連携・協働する取組の推進

■えりも町内の状況及び学力向上策（小学校数：4校、児童数：37人）（中学校数：1校、生徒数：32人）

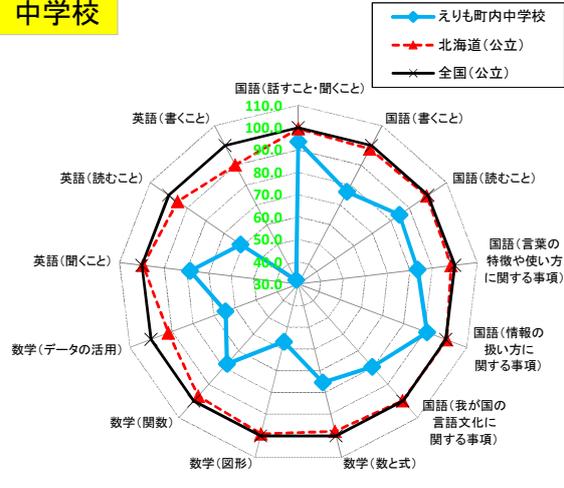
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

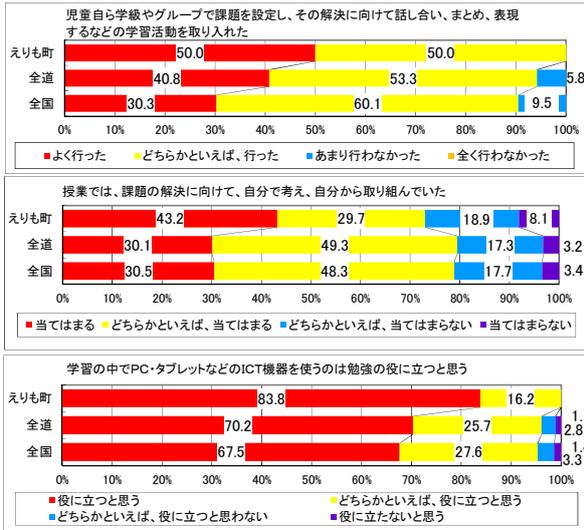


中学校

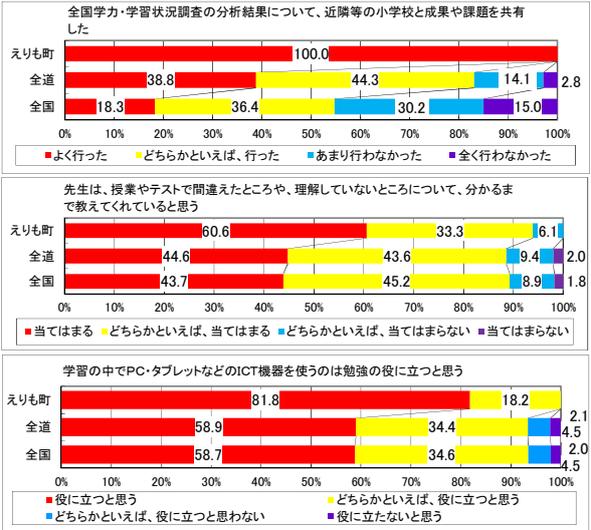


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、授業改善が図られ、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の指導の充実に向けた取組を推進したことにより、授業改善が図られ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したことにより、授業改善が図られ、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の指導の充実に向けた取組を推進したことにより、授業改善が図られ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

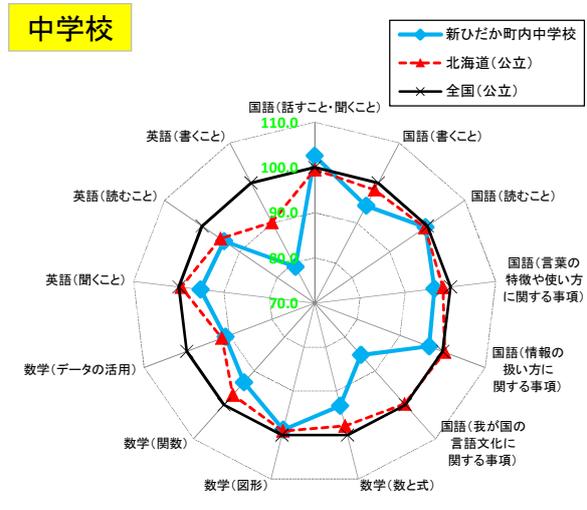
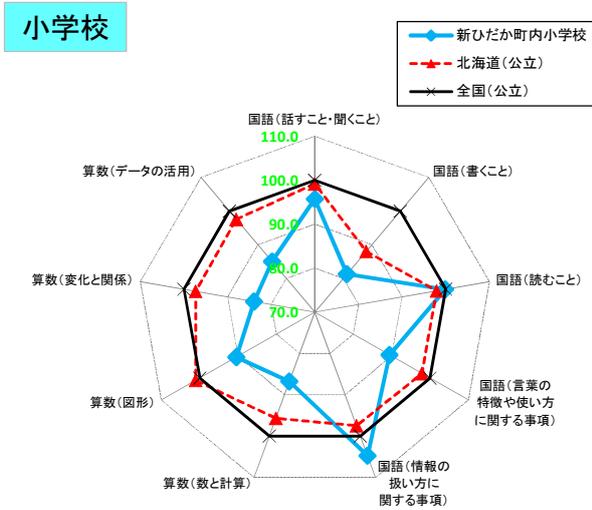
【えりも町の学力向上策】

- ◎ 全小・中学校へのタブレットドリルの導入等、ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の指導の充実
- ◎ 家庭学習の習慣化に向けた家庭学習小中協調週間の設定と町防災無線及び公共施設へのポスター掲示による町民への周知に向けた取組の推進
- ◎ 幼児教育を含めた幼保小中高の連携・接続の推進

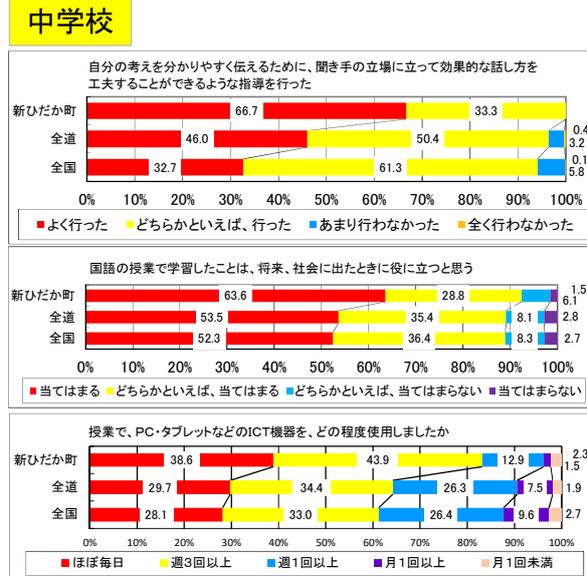
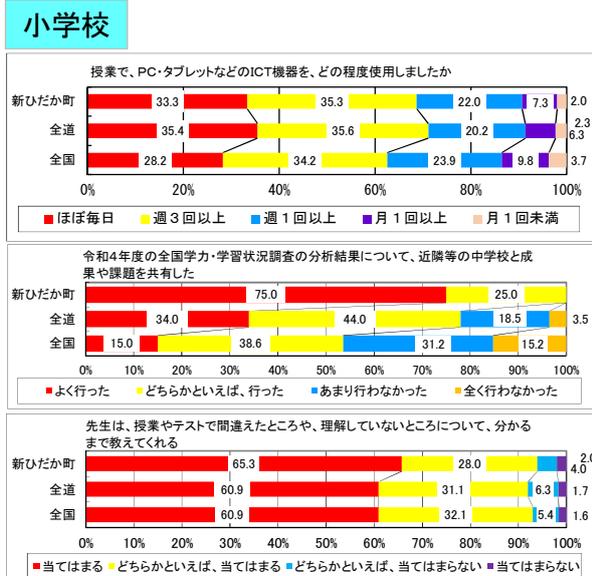
■新ひだか町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:152人）（中学校数:3校、生徒数:136人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業改善推進チーム活用事業において、推進教員を中心としたICTの効果的な活用による授業改善を推進したことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用していると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校区を単位とした学力向上推進ブロックにおける小中の連携を図った学力向上策を推進するとともに、令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の中学校と成果や課題の共有をよく行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」の領域および「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導をよく行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の中学校へ小学校における授業改善推進チーム活用事業でのICTの効果的な活用による授業改善の成果の普及を図ったことにより、授業改善が図られ、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新ひだか町の学力向上策】

- ◎ 中学校区を単位とした学力向上推進ブロックにおける小中の連携を図った学力向上策の推進
- ◎ 「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」推進教員を中心とした、ICTの効果的な活用による授業改善の推進及び中学校への成果の普及
- ◎ 児童生徒・保護者・地域へのアウトメディアの啓発と取組の推進